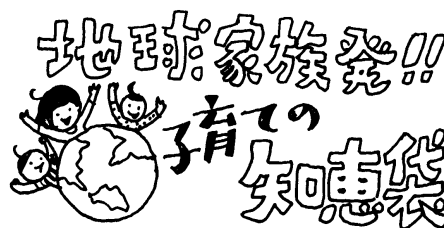


保育園での異文化体験エピソード



その15 「せんせい あまいね」



けんかをして友だちを叩いた子に、担任がていねいに話をして対応していました。たまたま、叩かれた子の保護者（アジア系外国籍の方）がそれを見て、「あの子は、いつもうちの子をいじめている。きちんと指導してください」という要求をされました。

この子をめぐってはトラブルが多く、ちょっと配慮の必要な子でしたから、説明に困ったのですが、一応、簡単な説明をして、「今後、気をつけるようにします」と伝えました。

そんなことがあって数週間後、保護者懇談会がありました。その中で、しつけの話になったときのことで。あのと時の保護者の方が一言、「日本の先生は、あまいね。子どもが悪いことをしたら、私の国では、叩いてもいいから厳しく教えます」と。

叩くのは別として、いけないことをしたらきちんと叱ることの大切さも、気持ちを受けとめることと一緒に大切なことだと思いました。

しつけのしかたは国や地方、いえ、人によってもずいぶん違うものです。子どもの権利もあり、複雑になってきました。

（島本一男／東京都八王子市・長房西保育園園長）

「地球家族ネットワーク」へのお誘いとエピソードのお願い

保育は、世界中の人と仲よく生活できること（平和）を伝える役割があります。

そこで、国際交流や外国籍の子どもたちの保育について情報交換をしたい方は、「地球家族ネットワーク」に参加してみませんか？！

また、外国籍の子どもを受け入れて、心に残るエピソードがありましたら、ぜひお寄せください。

全私保連 保育国際交流運営委員会

TEL 03-3865-3880 / FAX 03-3865-3879

E-mail : ans@zenshihoren.or.jp